

資料

看護専門学校教員の学生と直接関わらない 運営業務に対する経験と考え

Experiences and Thoughts of Nursing School Teachers on Administrative Tasks Not Directly Involved with Students

藤田美穂¹⁾

Miho Fujita

キーワード：看護専門学校教員、経験、考え、運営業務

Key words : Nursing school teacher, Experience, Thoughts, Administrative tasks

要旨

本研究では、運営業務に対する看護教員の経験と考えを明らかにすることを目的とした。調査は看護専門学校の専任教員 11 名への半構造的インタビューにて行い、得られたデータを質的帰納的に分析した。結果、運営業務についての経験は【業務量に圧倒される】【可能なら委任する】であった。考えは【負担が大きい】【人員や時間が必要】【新人教員にはショック】【連携が必要】【運営業務により教員としての成長】であった。この結果に対し、改善策として、外からは見えにくく、他者から理解が得られにくい運営業務の可視化の推進について考察を加えた。

I. はじめに

看護専門学校における看護教員の業務に関しては主に次のような調査や議論がある。教員が勤務時間内に行った業務内容では「実習指導に関する業務」が最も多く、続いて「担当科目の授業に関する業務」であり、他方、勤務時間外では「教材・資料作成」「教材研究/授業案作成」などであった(高下ら、2020)。また勤務状況や蓄積的疲労度の調査では、毎日 2 時間程度残業している教員は 86.7%、持ち帰り業務を行っている教員が 35.2%おり、その平均時間は 109.3 分と就業時間終了後の勤務が定常化していた(戸田・長谷川・濱本、2014)。勤務実態調査での看護師 3 年課程担当 1,663 名の回答では、70.9%の教員が「自分が担当している科目の講義・演習の準備」を時間外労働で行っており、83.7%が自宅に持ち帰ってもいた(日本看護協

会、2018)。その主な業務は自分の担当している授業と演習の計画立案・教材・資料作成や、クラス運営、各種会議や学校行事の準備などであり、学生と直接関わらない運営業務は残業もしくは持ち帰ることになりがちである。勤務時間内には、講義や実習指導など学生に直接関わる業務が優先になるため、それ以外の業務が時間外になってしまう状況がある。これらの現状を踏まえ、厚生労働省は「看護基礎教育検討会報告書」において、「看護師等養成所では教員の募集を行っても、なかなか応募者が集まらない実態に加え、カリキュラム外での補講や演習、成績管理等の事務作業や学生のカウンセリングへの対応等により、時間外業務も多く、教員の負担が増大し、さらに教員の確保が困難になるといった悪循環に陥っている」と危機感を強めている(厚生労働省、2019)。

1) 千里金蘭大学看護学部 Senrikinran University School of Nursing

以上、業務量の多さが教員の定着にも影響すると懸念されるほど深刻になっている。この状況の改善には、例えば業務量を減らす、人数を増やすなどが最善と考えられる。

しかし、これらの実現は容易ではない。厚生労働省は前述の報告書において、教育環境を改善する方向性として、「事務職員については、専任教員が学生への指導に専念し、教育効果の向上を図れるよう、学生数等を勘案して 1 名以上を配置する」との措置を講じ、これは令和 4 年度より実現されたところである。しかし、看護教員と事務職員との分業体制はこれまでに経験が乏しく、ただちに円滑に機能するとは予想し難い。

そこで、先述したように看護教員の業務が慢性的に過多である状況をさらにもう一步踏み込んで探っていく必要があるのではないかと考えた。自分の担当している授業と演習の計画立案・教材・資料作成や、クラス運営、各種会議や学校行事の準備など、残業もしくは持ち帰ることになりがちで、学生と直接関わらない運営業務に関する経験や、それをどのように捉えているのか、明らかにする必要があると考えた。

これらを明らかにすることには、看護教員の業務環境の改善や、事務職員との連携強化の一助となる。

II. 目的

本研究では、学生と直接関わらない、学校や授業のための運営に関わる業務に対する看護教員の経験と考えを明らかにする。

III. 用語の定義

学生に直接関わる業務とは授業、演習、実習指導、教科外活動など、在籍している学生への関わりが直接的である業務を指す。

学生と直接関わらない、学校や授業のための運営に関わる業務とは、学生に直接関わる業務の遂行を支える業務など、学生への関わりが間接的であり、学生の目に触れることがない業務(以下、「運営業務」)を指す。主に以下がある。

- ・授業と演習の計画立案・教材・資料作成、準備
- ・臨地実習に関する医療機関側との打ち合わせ
- ・クラス運営の準備業務
- ・各種会議や学校行事の運営準備
- ・事務作業(名簿作成、教材・資料印刷、会計)

IV. 研究方法

1. 研究デザイン

「運営業務」に関する語りの中から、経験と考えを示す語りを全て抽出し、似ている語りを類型化し記述する質的帰納的研究である。

2. 調査協力者

調査協力者は看護専門学校の専任教員 11 名である。職位や担当している教育課程は問わず機縁法で調査を進めた。

3. データ収集方法

調査協力の同意を得られた協力者に対してインタビューガイドに基づいた 1 対 1 の半構造的面接を実施した。聞き取り回数は 1 回とし、調査協力者の承諾を得た上でインタビュー内容を録音した。

聞き取り時間は 60～100 分、調査期間は 2019 年 12 月～2020 年 6 月であった。

4. 調査内容

- 1) 属性、年齢、看護師経験年数、看護教員経験年数、現任校での勤続年数。
- 2) 運営業務について
 - ・経験
 - ・業務についての考え

5. データ分析方法

調査協力者全員の語りから逐語録を作成し、「運営業務」についての経験と考えを示す文脈を抽出してコード化した。次にコード間を比較検討し、共通するコードを、サブカテゴリ、カテゴリへと類似性に基づいて 3 段階で分析、整理した。解釈の信頼性と妥当性のため、質的研究に精通した研究者 2 名から指導を受けた。

V. 倫理的配慮

調査協力者には文書と口頭で、研究の目的や意義、調査方法、個人情報保護について説明し、調査協力は自由意思で決められること、協力しなくても不利益を受けないこと、いつでも中止・中断できること、個人や勤務校が特定されないことも説明した。協力の同意は書面で得た。インタビューはプライバシーを確保できる場所で行い、録音の承諾を得た場合のみ録音した。音声データ、逐語録の電子ファイルは特定のメモリへ保存し、鍵のかかる保管庫で管理した。

尚、本研究は所属機関の研究倫理委員会の承認を得た実施計画を厳守した(滋慶医療科学大学院大学第2019-12号)。

VI. 結果

1. 調査協力者の概要

調査協力者11名をインタビューの実施順にA～Kさんとした(表1)。

2. 分析結果

分析の結果、「運営業務」の経験と考えるについては51のコードを得た。これらを分類すると20のサブカテゴリと7のカテゴリが形成された(表2・3)。以下、カテゴリを【 】, サブカテゴリを〈 〉で表す。

表1 調査協力者の属性

	年齢	性別	臨床経験年数	看護教員の経験年数	現任校での勤続年数
Aさん	50代	女性	16年	14年	14年
Bさん	40代	女性	10年	2年	2年
Cさん	60代	女性	8年	32年	1年(副校長)
Dさん	40代	女性	11年	13年	13年(教務主任)
Eさん	40代	女性	10年	3年	3年
Fさん	30代	女性	8年	4年	4年
Gさん	40代	女性	8年	15年	12年
Hさん	50代	男性	8年	15年	12年
Iさん	40代	女性	10年	10年	3年
Jさん	50代	女性	34年	8年	8年(実習調整者)
Kさん	30代	女性	10年	4年	4年

1) 運営業務の経験

(1) 【業務量に圧倒される】

このカテゴリは4つのサブカテゴリ〈実習、担任、授業、演習のそれぞれに「運営業務」が存在し、それに時間を費やし私生活が浸食される〉〈多岐に渡る労力と事務業務を一連で行わなければならない〉〈複数のことを同時並行するうえに、可視化が困難なため教員間で連携しにくい〉〈丁寧に行うことで学生を戸惑わせずにすむ〉で構成された。これらのサブカテゴリでは、幾つもの「運営業務」が存在することや、労力や時間が奪われ私生活が脅かされる経験が見出された。また同僚同士であっても互いにその業務が見えないために助け合いにくい状況に至った経験が示されていた。最初は「運営業務」を行っても不足があり、学生を戸惑わせていたが、教育に繋がっているからこそ、丁寧に行うことで学生を戸惑わせないという経験が見出された。

(2) 【可能なら委任する】

このカテゴリは2つのサブカテゴリ〈業務により事務職員に任せられないこと、任せられることがある〉〈交渉により事務職員が配置され、一部業務を任せている〉で構成された。「運営業務」の中でも、実習調整業務など、業務内容によっては教員しかできない状況がある一方で、交渉によって教務事務業務を事務職員に振り分けることで、教員の負担が軽減したという経験が見出された。

2) 運営業務についての考え

(1) 【負担が大きい】

このカテゴリは3つのサブカテゴリ〈時間の確保が難しく、業務が多重で終わりが見えず不安で、自分を見失う〉〈事務業務が多重で事務職員に依頼したい〉〈多重・多量な業務の実態を学生や臨床指導者にも知ってもらう必要がある〉で構成された。〈時間の確保が難しく、業務が多重で終わりが見えず不安で、自分を見失う〉では業務量の多さに対する時間確保の困難さや、終わりが見えず、心理的に不安な状況にあることが示されていた。〈事務業務が多重で事務職員に依頼したい〉では幾つもある教務事務の多さに忙殺され、事務職員に協力

表 2 運営業務の経験

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
業務量に圧倒される	実習、担任、授業、演習のそれぞれに「運営業務」が存在し、それに時間を費やし私生活が浸食される	実習、担任、授業、演習それぞれに運営業務がある 経験が浅い時期は運営業務一つ一つに時間を費やす。特に授業準備は教科書を 1 から読んで授業案を組み立てるが、この準備は就業時間内にできないため持ち帰って休日にする
	多岐に渡る労力と事務業務を一連で行わなければならない	コロナ禍の実習配置表の調整が把握しきれないほど多岐に渡る 講師への依頼状を出したり試験の受け取り、印刷、配布、採点依頼と一連の流れで事務仕事をやらなければならない
	複数のことを同時並行し、お互いが見えにくい ため教員間で連携しにくい	何もかもマルチタスクだ 教員同士であっても業務状況が互いに見えにくく把握できないことがあり、連携が取りにくい 他の先生が何してるのかわからない。だからどう手を出していいかわからないし、どう声かけたらいいかわからない
	丁寧に積み重ねることで 学生を戸惑わせずにすむ	(運営業務は)きちんと押さえておかないといけない、時間がかかっても、必要だ 最初の頃は一生懸命でも不足があり、学生が戸惑っていたため、後で補足していた。 小さなことをそつなく行い、積み重ねることで学生を迷わせずに授業や演習に臨める
可能なら委任する	業務により事務職員に任せられないこと、 任せられることがある	実習調整など、事務に任せられない仕事があるが、成績集計、出欠席の集計や依頼文書などは任せている 成績入力を事務方に任せ、教員はその成績をもとにすぐに学生へ学習指導ができる
	交渉により事務職員が配置され、 一部業務を任せている	事務の人数を増やしてもらって教務事務のことは事務に任せられるようにした ある程度事務に任せられるものと、教員がしなければいけないことを細かく住み分けして、事務長を通して事務の人にお願いして少し楽になった 持ち帰り業務に負担を感じている教員が声をあげ、教務事務職員の配置を依頼した。それが実現し、出席管理と成績入力を任せている

表 3 運営業務に対する考え

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
負担が大きい	時間の確保が難しく、業務が多重で終わりが 見えず不安で、自分を見失う	時間を確保するのが難しい 終わりがなく、疲れる、隙がない業務だ。授業準備は、しなければ授業できないが、しても不安 常に100%は無理だ。それをすると、自分が自分でなくなる
	事務業務が多重で事務職員に依頼したい	事務作業の成績入力に時間がかかるため学生指導の時間が、削られてしまっているというジレンマに 陥る 教務事務を学科に一人ずつ置いて貰いたい コロナ禍で事務的な書類の取り扱いが大変であり、時間を割かれた。事務方にして欲しい
	多重・多量な業務の実態を学生や 臨床指導者にも知ってもらう必要がある	臨床にいる時は、教員は実習に来て記録見て帰るイメージしかなかった。こんなに運営業務が 色々あることを指導者にも知ってもらいたい 裏で動く仕事が沢山あることを知ってもらう必要がある。学生や臨床指導者に見えている教員の姿と、 実際に教員になってみての姿に乖離がある
人員や時間が必要	学校は病院ほど働き方改革が浸透していない が少人数での運営のため仕方ない	学校に来て、病院の方が働き方改革が浸透しているという印象を受けた 人数が少ない中で学校を運営していかなければいけないので、ある程度は仕方ない
	時間とマンパワーの確保をし、時間外ではなく 時間内に業務をしたい	この業務に時間を割くのであれば、その分、時間にもっと余裕を持たせるべきだ この業務をするための時間、マンパワーがきちんと配置できるような適正配置が必要だ 時間外ではなくて時間内にもさせて欲しい
	時間外業務になるのは学校教員に 不可避だから仕方がない	小学校や中学校の先生も教授していくことの勉強は時間外にすることが多いと聞いていたので、 仕方ないと思う 目に見えない仕事が多い。授業準備、会議、打ち合わせも多い、委員会の自分の担当の業務とか
新人教員にはショック	新人教員は隠れた業務量の多さや、 多くの時間を割かれることに戸惑うだろう	学生に関わる業務の背後で、こんなに仕事があるという印象だ 授業や面談など目に見えることは業務として目立つが、そのための準備にかなりの時間を割かなくては ならず、新人教員はそのギャップに戸惑っているのではないかな
	外から見えにくいことや分担の不明瞭さに 新人教員は馴染めないのではないかな	病院の看護師は可視化された看護業務のみに専念できるが、看護教員の業務は可視化や分担が 不十分だから、病院勤務の経験しかない教員は変換が難しいのではないかな 私が学生のときには、苦労一つ見せない先生方だったが、自分が教員になって学生の前に立つための 後ろの運営業務がこんなにあるという印象だ 授業で教える、実習に行って実習指導をする、それ以外のことは私の仕事ではないと新人教員は言っ ていた
連携が必要	他職種へ依頼可能な業務と 教員がすべき業務を区別できれば、 その分、教育に注力できる	教員として関わらなければいけない部分と、違う職種でも任せられる部分をはっきりしなければと思う 成績管理などを教務事務の人に依頼できると、その時間を学生指導に費やせると思う
	教員同士で相談・共有すれば早く終わられ、 連携ができれば負担が軽減する	一人でするのではなく、教員同士で相談や共有がもつてできれば、早く解決できる 一人で遂行するのではなく教員同士が連携できれば負担が減る。お互いが協力して 連携できるような環境になれば、そこまで負担にならない
運営業務により 教員としての成長	「運営業務」は直接的な業務を円滑にし、 学校運営に繋がっている	学生に関わる業務の方が基本的な仕事とされているが、運営業務の方が学校運営には 非常に重要である 運営業務は学校を支える縁の下の力持ちのような存在だ
	「運営業務」は学生の教育に繋がっている	裏方で行う仕事も、その先の教育に繋がっているため、必要である 授業や宣誓式などを滞りなくするには、そこに行きつくまでの後ろで行う仕事が大切だ 見えないところで努力をするから学生の前に立てる 運営業務への丁寧さがなければ後で学生に返っていく
	「運営業務」は一人で抱え込みやすく、 そこに人間性が現れる	運営業務は単独で動くこともあるため、一人で抱え込みやすい 正解はないかもしれないが、何が大事なのか、何が正しいのかわからない 運営業務に仕事こそ、その人の中身が出る
	「運営業務」をすることで教員としての 倫理観と揺るがない覚悟ができた	運営業務が、あまり苦ではない 印刷など教員でなくてもできる雑務などから授業準備や演習準備の下積み経験を経たから学生の前 に立てる 正しいことを正しく教えるには簡単に権力を持ってもらえない、簡単に何でも言える人間になってはいけ ない 学生に関わらない業務の下積み経験がなければ、教員講習に行っても何も繋がらなかった

を得たい、依頼したいという考えが表現されていた。〈多重・多量の業務の実態を学生や臨床指導者にも知ってもらう必要がある〉では多重・多量の業務であり、臨床指導者など様々な他者に向かって可視化し、知ってもらいたいとの考えを持っていた。また外から見る教員の姿と実際になってからのギャップがあると述べられていた。

(2) 【人員や時間が必要】

このカテゴリは3つのサブカテゴリ〈学校は病院ほど働き方改革が浸透していないが少人数での運営のため仕方ない〉〈時間とマンパワーの確保をし、時間外ではなく時間内に業務をしたい〉〈時間外業務になるのは学校教員に不可避だから仕方ない〉で構成された。〈時間とマンパワーの確保をし、時間外ではなく時間内に業務をしたい〉ではこの業務に十分な時間と教員の人数のゆとりが必要であることや、病院に比べて学校には時間外業務を減らすような働き方改革が浸透しておらず、時間やマンパワーの適正配置が必要であるとの考えが示されていた。しかし、一方で〈時間外業務になるのは学校教員に不可避だから仕方ない〉と、時間やマンパワーを増やして欲しいと思いつつも、この業務は避けることができないため、肅々と折り合いをつけようとしていた。

(3) 【新人教員にはショック】

このカテゴリは2つのサブカテゴリ〈新人教員は隠れた業務量の多さや、多くの時間を割かれることに戸惑うだろう〉〈外から見えにくいことや分担の不明瞭さに新人教員は馴染めないのではないかと〉で構成された。〈新人教員は隠れた業務量の多さや、多くの時間を割かれることに戸惑うだろう〉では新任教員が、「運営業務」の業務の多さに驚き、それに多くの時間が割かれ臨床時代とのギャップを覚えてリアリティショックを受けることの懸念が示されていた。

(4) 【連携が必要】

このカテゴリは2つのサブカテゴリ〈他職種へ依頼可能な業務と教員がすべき業務を区別できれば、その分、教育に注力できる〉〈教員同士で相談・共有すれば早く終わられ、連携ができれば負担が

軽減する〉で構成された。〈他職種へ依頼可能な業務と教員がすべき業務を区別できれば、その分、教育に注力できる〉のサブカテゴリは「運営業務」の担い手を教員と事務職員に弁別すべきだという考えと、教務事務業務を事務職員に依頼できると、その時間を学生指導に費やすことができると考えていた。〈教員同士で相談・共有すれば早く終わられ、連携ができれば負担が軽減する〉のサブカテゴリでは教員同士で協働ができれば問題解決が早く進むこと、また「運営業務」は不可欠であるため一人でするのではなく、お互いが協力して連携できれば負担も軽減するとの思いが抱かれていた。

(5) 【運営業務より教員としての成長】

このカテゴリは4つのサブカテゴリ〈「運営業務」は直接的な業務を円滑にし、学校運営に繋がっている〉〈「運営業務」は学生の教育に繋がっている〉〈「運営業務」は一人で抱え込みやすく、そこに人間性が現れる〉〈「運営業務」によって教員としての倫理観と揺るがない覚悟ができた〉で構成された。これらのサブカテゴリでは、「運営業務」こそが学校運営を支えている、それは学生を支える教育に繋がっており、学生に直接関わる業務を円滑にするために肝要だと捉えられていた。

〈「運営業務」は一人で抱え込みやすく、そこに人間性が現れるには人間性が現れる〉では「運営業務」は単独で動くこともあるため一人で抱え込みやすいこと、その人の性質や品格が発露されると捉えられていた。それだけに従事した経験が教育思想的土台になり教員としての自分を形成させる一助になっていると考えられていた。

VII. 考察

本研究における考察は「運営業務の経験」、「運営業務についての考え」の2点について述べる。今回は、紙幅の関係でカテゴリの一部を取り上げ検討する。

1. 運営業務の経験

「運営業務」の経験についてはカテゴリ(1)【業務量に圧倒される】と(2)【可能なら委任する】の2つが見出された。

このうち(1)【業務量に圧倒される】は、「運営業務」の量の多さに対する時間確保の難しさや、業務量の多さの見えづらさ、授業準備で私生活が脅かされる経験から形成されていた。これに類する先行研究としては、看護専門学校教員の業務量に関して、「カテゴリ【看護師から教員への役割移行】では、仕事の時間に区切りがなく〈解放されることのない多重業務〉であり、日中は忙しく〈時間外に行う授業の準備〉のために夜遅くまでかかり《職務に伴う負担感は重かった》」と報告されている(田中・比嘉・山田, 2017)。また別の文献では、「業務量が多い、事務的作業が多く、授業の準備をする時間がとれない」「時間外勤務が多いため、育児と仕事のワークライフバランスに困難が生じる」などのため職業継続意思を抱けないとされている(成田・長谷部, 2017)。これらの報告においては学生に直接関わる業務と「運営業務」が分けられていないが、「授業の準備」や「時間外勤務」という言葉が出てきていることから、「運営業務」が多いという結果が含まれていた可能性が考えられる。本研究においても、一つ一つに時間がかかり、プライベートな時間を取られてしまうことや、コロナ禍の実習調整が多岐に渡るという業務量に圧倒される経験が見出されており、これらの調査研究と近い結果が得られたと考えられる。

2. 運営業務についての考え

「運営業務」についての考えとしては、(1)【負担が大きい】(2)【人員や時間が必要】(3)【新人教員にはショック】(4)【連携が必要】(5)【運営業務により教員としての成長】のカテゴリが示された。

(1)【負担が大きい】には〈多重・多量な業務の実態を学生や臨床指導者にも知ってもらう必要がある〉が含まれていた。このサブカテゴリに関連して先述した勤務実態調査を見ると、70.9%の教員が「自分が担当している科目の講義・演習の準備」を時間外労働で行っており、83.7%が自宅に持ち帰ってもいた(日本看護協会, 2018)。このことから、「運営業務」は時間外もしくは自宅に持ち帰っての

業務となることが多いため、他者の目には触れにくいことで、可視化には至らないことが考えられる。この状況から〈多重・多量な業務の実態を学生や臨床指導者にも知ってもらう必要がある〉と望んでいるのではないかと考えられる。そして、今回の調査結果から、最も重要なことは、この業務の存在を周囲に可視化させていくことであると考えられる。

(2)【人員や時間が必要】では、「運営業務」には時間が必要であり教員数のゆとりも必要であることが示されていた。その一方で、「運営業務」は避けることができないため、粛々と折り合いをつけようともしていた。しかし、ここで重要なことは、上述と重複するが、外からは見えにくい「運営業務」に多量な時間を費やしていることをまずは周囲に知ってもらう必要があると考えられる。

(3)【新人教員にはショック】で示された主な意味は、新任教員が「運営業務」の多さに驚き、多くの時間が割かれ、臨床時代とのギャップを覚えてリアリティショックを受けることの懸念であった。これについて、特に新任教員の育成に関する先行研究を見ると、育成する過程に関して、「新人教員のためのマニュアルが整備されていない」「新人教員は専任教員養成講習会の受講後から一人前と認められ、学生指導や授業などの役割が与えられる」という特徴が確認されていた(寺田・吾妻, 2022)。

新任教員はマニュアルもなく慣れないながらも学生と直接関わる業務を行い、それに加え「運営業務」を行わなければならない。外からは見えにくいその業務の存在を知らずに看護教員になる人もいるだろう。したがって、病院看護師の誰が次の新任教員になっていくかわからないことを踏まえ、病院看護師のすべてに「運営業務」を知らせておくことが重要になってくる。

また、新任教員が過酷なストレスに晒されることがないように、リアリティショックが軽減されるように努めていく必要がある。「運営業務」に関しても教員集団の中で共有し、援助をしていく必要があると考えられる。そうすることで長期的には

新任教員の適応を促し、離職を減らすことに繋がっていくと考えられる。

(4)【連携が必要】には、サブカテゴリ〈教員同士で相談・共有すれば早く終わられ、連携ができれば負担が軽減する〉が含まれていた。そこでは、「運営業務」を複数同時並行しているが同僚同士であっても互いにその業務が見えないために助け合にくい経験が示されていた。先行研究でも「教員の業務は協力やサポートが受けられない独特の職務体質や人間関係の負担から一人で問題を抱え込み、相談ができず孤独感を感じ、多忙感を抱きながら自分自身の職務・業務を優先して実践しており、協調性のない教員の集団になっていた」(加藤、2010)と報告されている。

本研究においても先述したように時間外や自宅に持ち帰る特徴があるため、外から見えにくく、また他者の理解が得られにくいことから、一人で抱え込みやすい状況に必然的に陥ることが予測された。

(5)【運営業務により教員としての成長】は、サブカテゴリ〈「運営業務」は直接的な業務を円滑にし、学校運営に繋がっている〉〈「運営業務」は学生の教育に繋がっている〉〈「運営業務」をすることで教員としての倫理観と揺るがない覚悟ができた〉などで構成されていた。この業務が学校運営を支えていること、学生を支える教育に繋がっており、学生と直接関わる業務を円滑にするために肝要だと捉えられていた。このことは「運営業務」に備わっている学生に直接関わる業務を支える重要な機能があることを認識していることが考えられる。また「運営業務」に従事した経験こそが、教育思想的土台になり教員としての自分を形成させる一助になっていると考えられており、ポジティブな側面も認識されていることを確認できた。サブカテゴリ〈「運営業務」をすることで教員としての倫理観と揺るがない覚悟ができた〉とあるように調査協力者がこのような認識をしていると顕在化させたことで、「運営業務」に関連して辛さや迷いのある看護教員の捉え方が変わるのではないかと考えられる。

VIII. 本研究の限界と課題

本研究の結果には調査協力者の勤務校のある地域が狭かったこと、調査協力者が11名と少人数であったことで、地域や個人の特性が影響していた可能性がある。

運営業務についてのエピソードとして11名全員が新人教員時代のことを語っており、このような様式の語りは何によるものかに着眼し、定型ストーリーの背後を明らかにしていくことが次の課題である。

IX. 結論

本研究では、学生と直接関わらない、学校や授業のための運営に関わる業務に対する経験と考えるについて以下の結論を得た。

「運営業務」の経験については【業務量に圧倒される】【可能なら委任する】であった。

「運営業務」に対する考えについては【負担が大きい】【人員や時間が必要】【新人教員にはショック】【連携が必要】【運営業務により教員としての成長】が示された。

謝辞

本研究にご協力いただきました11名の看護専門学校校の看護教員の皆様に心より感謝申し上げます。

利益相反の開示

本研究における利益相反は存在しない。

文献

- 古川康一・升田俊樹・西山武繁(2014)．合奏指導における比喩表現の役割．第28回人工知能学会全国大会，1M5-0S-05b-2, 1-4.
- 池田喬(2016)．言葉を使って痛みを他人に伝えることはできるか．看護研究，49(4)，276-284.
- 加藤睦美(2010)．職務・業務を遂行する中で看護師養成所の看護教員のストレスの要因となる内容．日本看護学会論文集看護教育，40，113-115.

- 公益社団法人日本看護協会(2019).「2018年看護師養成所の教員の勤務実態等に関する会員調査」.
https://www.nurse.or.jp/pdf/2018/yoseijyo_jittai. 2022年9月23日閲覧
- 厚生労働省(2019).「看護基礎教育検討会報告書」.
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_07297.html.pdf. 2022年9月23日閲覧
- 成田富貴子・長谷部真木子(2017). 看護専門学校教員の職業継続意思と組織コミットメントに関する研究. 秋田大学保健学専攻紀要, 25(1), 37-52.
- 佐藤典子(2009). 新人看護教員の役割遂行によるストレスを成長へと結び付けることに影を与えた要因. 神奈川県立福祉大学実践教育センター看護教育研究集録, 34, 62-69.
- 高下智香子・藤井光揮・武森八智代・田儀千代美・常石光美・児玉真由美(...)伊藤由紀枝(2018). 国立病院附属看護師養成所 A 地区の専任教員の業務内容の実態. 中国四国地区国立病院附属看護学校紀要, 16, 29-43.
- 田中いずみ, 比嘉勇人, 山田恵子(2017). 看護専門学校教員における職業キャリア成熟構造. 富山大学看護学会誌, 16(2), 151-171.
- 寺田さとみ・吾妻知美(2022). 看護専門学校における新人教員を育成する過程. 京府医大看護紀要, 32, 45-58.
- 戸田悦子, 長谷川美由紀, 濱本瑞穂(2014). 北海における看護師養成所看護教員の勤務実態と蓄積的疲労調査. 看護教育, 55(8), 760-765.

Abstract

This study identified nursing teachers' experiences of and thoughts on administrative tasks. Data collected through semi-structured interviews with 11 full-time teachers at a nursing school was analyzed qualitatively and inductively. The following themes emerged regarding teachers' experiences with administrative tasks: "overwhelmed by workload" and "delegate if possible". Their thoughts on such tasks were as follows: "burden is considerable", "requires manpower and time", "shocking for new teachers", "requires collaboration", and "growth as a teacher through administrative tasks". Accordingly, promoting the visualization of administrative tasks, which are difficult to observe from the outside and understand for others, is proposed as possible solution.